

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	中野ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が拡がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者が動物の鳴き声について問いかけると、子どもたちは「Roberto先生は英語の先生だから、英語しか話せないんだよ。」「でも、動物の鳴き声は同じじゃない?」と話していました。すると別の子が、「でもさ、日本語と英語って動物の名前がちがうでしょ?だから鳴き声もちがうんじゃない?」と、自分なりの考えを話していました。子どもたちは、日本語と英語が違う言葉であることは理解している様子でした。

【流れ】英語講師の来園日には、英語で動物の鳴き声が入った歌を歌ったり、動物以外の擬態語や擬音語（オノマトペ）が登場する英語の絵本の読み聞かせを行ったりし、保育者も子どもたちと一緒に活動に参加する。また、自由遊びの時間には、保育者が日本語で動物の鳴き声が入った歌を歌い、英語講師も子どもたちと一緒に楽しむ。さらに、普段英語の活動で使用している絵カードを用いて、みんなでオノマトペ遊びも行う。このように、子どもと大人が共に活動に参加しながら、日本語と英語それぞれのオノマトペに触れ、共有する機会を設定します。。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

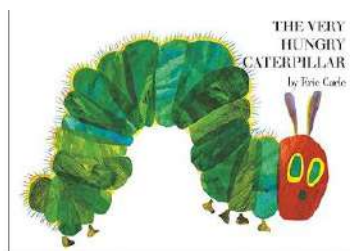
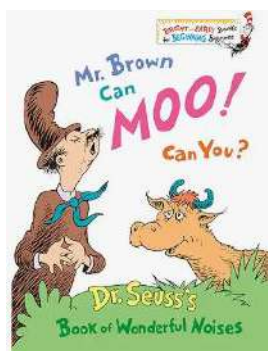
【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

- * 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"
- * 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード
- * 英語のオノマトペ絵本："Mr. Brown can moo"
- * 2024年度に使用した英語の絵本："The very hungry caterpillar","Today is Monday"



4-①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

*5歳児クラス：「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

保育者が簡単に「ゆかいな牧場」を歌い、知っているかどうかを子どもたちに聞く。知っているという声が多かった為、保育者と一緒に歌うと、大きな声で歌う様子が見られた。歌った後に、どんな動物が出てきたかを聞いてみると、「うま!」「ひつじ!」と自信をもって発言をし、楽しむ姿が見られた。

4-①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。英語のオノマトペの絵本"Mr.Brwon can say moo!"を英語講師が読み聞かせる。 8月

*5歳児クラス：「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

日本語で聞きなじみのある動物の鳴き声を英語だと違うことに気付き、「え?違うよ」と驚く様子があった。何度か繰り返し読んでもらおうと耳が慣れて、模倣して英語で動物の鳴き声を発声していた。動物になりきって発声すると、「面白い」と話して笑いながら楽しんでいた。クラス内では特にニワトリがお気に入り、大いに喜んでなりきっている。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】2024年度からの続きで、同じメロディを日本語と英語で歌ってみることで、違う部分や、同じ部分を子どもたちが気づくようになってきた。動物の鳴き声を日本語と英語で比較してみたり、どのようなオノマトペがあるのか、それは日本語と英語でどのように違うのかなど、英語と日本語の違いに興味を持つ場面が増えてきた。

【次回への問い】英語のレッスンで使用している動物カードを自由に子どもたちが使うことで、子どもたちはどのように動物の鳴き声を発するだろうか？その後本物の動物の鳴き声を聞くことで子どもたちはどのように反応するだろうか？

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードとどうぶつ図鑑を自由遊び中に使う） 9月

5歳児クラス：②自由遊び中に動物のなきごえ図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・動物カードをかかるとのようにならべて、鳴き声を聞いた後に鳴き声と同じ絵カードを取るゲームをした。鳴き声を聞いた後に絵カードを獲得できた子どもは、講師よりも早く取れたことに喜ぶ。保育者が「英語で何て言うんだっけ？」と聞くと、「ホース！」とレッスンで、覚えた単語を元気よく話していた。

その後カードを獲得できた子が次々と「ブタ！ピッグ！」と日本語と英語を交えて話し、楽しくゲームに取り組んでいた。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】鳴き声を聞きながら英語での鳴き声の発音が、日本語との違いに気づき驚いた様子ではあったが、すぐに「面白いね」と受け入れて楽しむ姿があった。子どもの順応の速さに驚いた。英語を通して様々な人がいることに気づき、違いを受け入れて理解し合う気持ちを持ち始めていることに気づいた。

【次回への問い】英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

4-③.探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>③自由遊び中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う 10月

・5歳児：様々な乗り物の絵カードを見て、音を言葉で表現する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

初めに簡単な車の絵カードを見せて、「これはどんな音が鳴る？」と聞くと、「ブーン」「ブブー」と様々な擬音で表現する姿が見られた。その後、トラックや船、バスなどの乗り物を見せると、「ブブー」と大きな声で表現したり、「プシュー」といった音を表現したりする姿が見られた。

英語での音の表現を聞くと、飛行機「スウィーン」、電車「チャガチャガチューチュー」など聞き馴染みのない音だと分かり、日本語と英語の違いを理解している様子だった。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】日本語で乗り物の音を表現するときに、電車や飛行機など明確な違いが分かるものはすぐに表現していたが、車やトラック、バスの違いを表現することが難しく、擬音を増やしたり、大きな声で表現したりと違いを表しているように感じた。

また、英語の擬音を聞くと、車は同じだということが分かったが、それ以外は初めて聞くような音ばかりで、真似をして音を表現することを楽しむ姿を見ることができた。

【次回への問い】英語講師、保育者も含めて子どもたちとオノマトペの絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。

4-④. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。 12月

*5歳児クラス：絵カードを見て、どんな擬音語や擬態語があるのかを知る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

雨が降っている絵カードを見せて、どのような表現をするか聞いてみると、「ポツポツ」「しとしと」など様々な擬態語を表現する姿が見られた。ほかにも様々な絵カードを見せると、「うっとり」「ドキドキ」など絵カードにあった擬態語を友だち同士で表現することを楽しんでいった。

5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】初めは絵カードを見てもどんな表現をするのか思いつかない様子があったが、保育者が例をあげて伝えてみると、子どもたちから様々な擬態語・擬音語が出たり、知らない表現の仕方を知ったりして、楽しみながら言葉を知ることができていた。

【次回への問い】幼児クラスは英語で工作の時間があり、英語レッスンで学んだ単語にちなんだ工作を毎月行っています。英語で工作の時は英語講師が英語で説明し、保育者も日本語通訳をせず、工作の見本を一緒に作りながら参加し、子どもたちを手伝います。2024年度に読んだエリックカールの絵本"The very hungry caterpillar"と"Today's Monday"を再度英語で読み返し、子どもたちが主体的に、自分の「1週間なにを食べる表」を制作してみてもどうか？工作を通して、食べ物の擬態語、擬音語への興味も深まっていくのではないかと。

4-⑤. 探究活動の実践（英語で工作）

<活動の内容>①The Very Hungry Caterpillar、と Today Is Mondayの英語の読み聞かせを行い、その後自分の「1週間なにを食べる表」を制作する。 1月

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・自分で一週間の献立を立てることに、「何にしようかな」「果物いっぱいしようかな」と友だち同士で話して、わくわくしている様子があった。食に関する英単語には馴染みがあるものがあるため、自信を持って「スパゲッティ!」「ストロベリー!」と発音し、講師とのやりとりを楽しんでいた。



5-⑤. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】英語の発声だけでなくイラストを見て自分で選択し献立を作ることで、講師とやりとりを楽しみながら食べ物の英単語を発声していた。実際献立を立てると自分の好きな食べ物だけを選ぶ子、バランス重視の子と様々な姿があり個性を発揮していた。英語に触れながら個性を発揮できる場となった。英語に親しみを持ち始めていることや講師との関係性が良好だからこそ、自由に表現をしていた。

【次回への問い】子どもたちはことばには日本語も英語もあり、またそれ以外に様子を表す擬態語や擬音語もあって、しかもそれらにも日本語や英語特有の音があることに気づいたかもしれない。また園には日本語や英語以外のことばを話す友だちもいることから、日本語英語以外の世界についても興味を持ち探究活動が広げられるのではないか。